十日町市 Tokamachi ぎかいだより

No.55 平成30年1月25日発行

写真タイトル　ゆきだるま（十日町高校写真部）

一般会計補正予算

【補正予算（第４号）】　衆議院議員総選挙に係る経費の補正（専決処分）

〈主な事業〉

○衆議院議員総選挙費（選挙管理委員会事務局）

・衆議院の解散に伴う総選挙費用の補正 …… 3,600万円

【補正予算（第５号）】　10月の台風豪雨による災害復旧事業に係る経費の補正（専決処分）

〈主な事業〉

○農林水産業施設災害復旧費（農林課ほか）

・農地農業用施設及び林道施設の災害復旧に係る補助金、委託料の追加 …… 400万円

○土木施設災害復旧費（建設課）

・土木施設の災害復旧に係る委託料、工事請負費の追加 …… 1,950万円

【補正予算（第６号）】　子育て支援、大地の芸術祭の推進及び市道の除排雪に係る経費等の補正

〈主な事業〉

○十日町地域市営バス運行事業（企画政策課）

・平成30年４月予定の六箇地区市営バスの運行に必要な消耗品費等の補正 …… 45万円

○認定こども園運営事業（国庫補助）（子育て支援課）

・平成29年度より追加となった職員の処遇改善加算による公定価格の増額などに伴う施設型給付費の追加 …… 5,208万円

○中山間地域等直接支払交付金事業（農林課）

・集落協定の広域化及び交付対象面積の増加による交付金の追加 …… 288万円

○大地の芸術祭受入対策事業（観光交流課）

・県補助金の活用による３月開催の雪花火用のシャトルバス増強のための委託料の追加 …… 160万円

○市道除排雪経費（建設課ほか）

・市道の除排雪委託料等の追加 …… 5億1,260万円

○スクールバス整備事業（教育総務課）

・川西地域のスクールバスの老朽化に伴う車両購入費の追加 …… 114万円

○要・準要保護児童生徒就学援助事業（教育総務課）

・国の制度改正による支給単価の増額及び（小学校・中学校）入学前支給の年度を前倒しすることに伴う援助費の追加 …… 665万円

○現年発生林道施設災害復旧事業（国庫補助）（農林課）

・林道施設の災害復旧に係る工事請負費の追加 …… 900万円

○現年発生土木施設災害復旧事業（国庫補助）（建設課）

・土木施設の災害復旧に係る負担金等の追加 …… 2,537万円

携帯電話の不感地域解消は？ 農畜産物や加工品を世界へ！

星名大輔 議員

質問 **携帯会社によっては使えない地域がありますが、各社の使える地域を広げる計画は？、外国人旅行者は困っていませんか？、ほくほく線のトンネル内でも使えるようになりませんか？**

答弁 23年度には当市の不感地域はすべて解消しています。エリア内に2社、3社と範囲を広げるには、国の補助事業が受けられず、市の単独事業となるので事業化は難しいと考えています。

外国人旅行者が困ったことの上位に無料Wi-Fiの少なさが挙げられています。芸術祭関連施設を中心に無料Wi-Fiサービスを行っており、現在市が管理する20施設で利用できます。トンネルの不感解消には1km当たり約1億円の費用がかかると言われ、国の事業を使ったとしても事業者は慎重にならざるを得ず、事業実施は難しいと思われます。

質問 **農畜産物生産者や加工品製造業者が行う販路拡大やブランド化を支援して所得増大を図っていますか？、海外販路開拓を支援して頂けないでしょうか？、東京オリパラを利用したPRは？**

答弁 市では首都圏で当市を応援する企業や団体のネットワークづくりに取り組んできました。この活用で当市のファンづくり、売り場の確保、一過性ではない消費喚起という大きく3つの事業に取り組んでいます。消費の循環をつくることで販路拡大に向け、価格競争に巻き込まれない十日町ブランドの確立を目指しています。海外へ視点を向けることは大変重要だと考えていますが、一昨年、首都圏営業所を開設したので、まずは首都圏から営業活動を進めることが大事だと考えています。海外販路開拓のニーズがあれば、市役所の中にもいろんな対応ができる組織ができてきていますので、これを活用し支援が出来ればと思います。食材提供には認証が必要で、市では認証取得に対し支援を行っています。多くの方が認証を取得し、東京オリパラの供給販売につながればと期待しています。

貧困の連鎖解消対策 運転免許自主返納サポートについて

村山達也 議員

質問 **家庭の収入が低く、貧しい家庭で育った子供は将来的にも低所得になる可能性が高いという「貧困の世代間連鎖」を断ち切る支援と対策が必要と考えるが、現在と今後の対応を伺う。**

答弁 生活に困窮している人に対して関係機関と連携しながら自立に向けた相談支援を行っています。各種奨学金制度や貸付制度を紹介するなど相談者に寄り添えるよう努めます。27年度からは市内に就職した30歳以下の方を対象に奨学金の返還に対し、補助率½、年12万円を上限に、最大5年間60万円を補助する事業を行っています。負担軽減の点では貧困の連鎖の解消という面でも一定の効果があったと思われます。事業は今年度で新規の受付を終了しますが、国県でも給付型奨学金制度や出世払い方式等の議論があり、制度自体が変わることも想定されます。国県の動向を注視し、新たな施策でフォローできない部分への支援について、さまざまな角度から検討したいと考えています。

質問 **高齢者が加害者となる悲しい自動車事故をなくしたい。高齢者ドライバーの皆さんが運転免許を返納しやすい環境整備のため免許返納サポート制度の創設が必要と考えるが対応を伺う。**

答弁 十日町警察署管内では、自主返納へのサポート制度は行っていません。自主返納の促進策は、津南町と協議を重ねてきましたが、当地域の実情を考えると自主返納に限ったサポートではなく、高齢者の交通安全対策の強化や公共交通網等の整備を検討します。バス事業者が運行できなくなった路線は、市営バスや予約型乗合タクシーでの運行交通手段を確保したいと考えています。限られた財源で、最も効率的に、しかも安心して住んでいただけるような体制づくりを目指していますので、ご理解いただきたいと思います。

十日町市子育て支援ガイドブック

堆肥化施設整備及び防犯灯の設置助成制度について

小林正夫 議員

質問 **市では堆肥化施設整備調査・バイオガス発電事業可能性調査を行いましたが、調査結果をどう活用し、堆肥化や臭気対策、またバイオガス発電に向けて取り組んでいくのか伺います。**

答弁 この方法のメリットとして、養豚場の敷地内で糞尿を処理できるため、臭気の大幅な軽減、廃棄物の体積の減少が見込まれます。現在、国の支援を受けながら、実行性や採算性の検証を進めており、今年度中に調査結果を取りまとめます。メタン発酵発電施設の導入には養豚農家との協力・連携が、発酵残渣の堆肥化にはＪＡとの協力・連携が不可欠です。調査結果を関係機関等と共有し、さらに具体的な計画立案の根拠資料としたいと考えています。この事業を進める上で、今後精査すべき豪雪地ならではの課題はありますが、地域と調和した畜産経営の発展のため、さまざまな角度から検討を進めます。そして、将来にわたって需要に応じた堆肥肥料を市内農家に供給し、家畜糞尿をエネルギーに変換した電気・熱の自家生産、自家消費を理想に掲げ、持続可能な循環型農業の実現を目指します。

質問 **交通安全や犯罪防止のため、防犯灯の設置や管理に関し必要事項を定めていますが、安全と思われた地域や身の回りは事故や事件がいつ起こっても不思議でない社会状況です。防犯灯の設置制度の見直しについて伺います。**

答弁 防犯灯は、主に歩行者に対する防犯を目的に設置しているもので、大部分が地元管理となっています。集落内の設置については、引き続き十日町市防犯灯の設置及び管理に関する規則により、防犯灯支給事業を行い、ＬＥＤ化の促進に努め、安全・安心な地域づくりを目指してまいります。

直線型ロータリー式かくはん機。原料のかくはん、混合を行い発酵を促進します

食の安心安全 めざそう食中毒ゼロ

山口康司 議員

質問 **❶学校給食等、大量調理給食施設の食中毒対策は。O—157、カンピロバクター、ノロウイルス対策は。❷HACCP（食品製造の際に安全を確保する管理手法）の義務化は。❸学校、保育園等、給食施設、調理職員の数は。講習、研修を開催しているか。**

答弁 ①食中毒の原因の多くは細菌やウイルスの感染であるため、調理に関する注意と、人から人への感染を予防することが重要です。予防対策として、食中毒予防の知識の普及啓発、県内の感染症情報の周知、福祉施設が行う予防対策の強化の３つを繰り返し実施し強化を進めます。学校給食では、衛生管理マニュアルを作成し、履行されているか確認しています。また、保健所の給食施設巡回指導により、正しい衛生管理が履行されているか確認しています。このほか、学校薬剤師による衛生管理定期検査も年３回行っています。②食品衛生法の改正が今年予定されていることから、国、県の動向を注視し、情報収集に努めます。③給食従事者の数は、共同調理場66人、単独調理場20人、保育園等73人です。調理従事者の衛生意識向上の研修会も開催しています。

質問 **手洗いマイスター制度の活用**

答弁 学校でも手洗いの重要性についての知識や理解を深めるため、提案があれば指導を受け入れたいと考えます。

質問 **大地の芸術祭の開催期間中に、十日町産の生鮮食材を使用して食の祭典、イベントができないか。**

答弁 食の祭典等を芸術祭に合わせて実施することは、相乗効果が期待できると考え、引き続き支援を考えています。芸術祭においても食の情報をＰＲし、訪れた方が地元食材や料理を味わうことで、食も含めた十日町ファンになってもらえるよう取り組みます。

消費者の皆様に食の安心・安全をアピールする自主衛生管理の実施内容を示した５つ星プレートです

当市の畜産業について

太田祐子 議員

質問 **当市は、中越家畜保健衛生所管内で最大の畜産地域を維持しています。県認定のクリーンポーク認定率は県下トップレベルであり、妻有ポークグループにおいては全体で取り組む防疫と衛生管理体制の確立が高く評価され、日本農業大賞や食味を競う丸の内オリンピック総合優勝を果たしています。ブランド力向上と発展のためお伺いします。❶畜産業の現状と課題❷当地域の畜産業の特徴と優位性❸家畜伝染病対策**

答弁 ①市内畜産物の農業産出額は推計で7億4千万円です。主な課題は環境対策で養豚業では悪臭解消が長年の課題です。生産者は、これまでも消臭剤の使用、植林・防壁設置などさまざまな取組みを行っており、うち1戸の養豚農家では、最新鋭の脱臭装置付きの堆肥装置を導入するなど、臭気の抑制と周辺環境の改善に努力を重ねてきました。市では、施設整備への支援のほか、臭気軽減の資材購入支援等を行っています。②地域内の養豚農家グループは隔離豚舎を県内で最初に設置し、全国でも少ない子豚期から出荷まで無薬飼料での飼育を行い、健康でおいしく、安全・安心なブランド豚として市場での地位を確立しています。市でも販路拡大に努めており実績も上がってきています。おいしくて、安心安全なブランド豚としてしっかりPRしていきたいと考えています。③予防にはウイルスを持つ可能性のある野鳥、ネズミ等の侵入防止と人の出入りの際の消毒の徹底が重要です。家畜伝染病が発生した場合は、県が行う防疫措置に協力し、迅速かつ的確に対応することとしています。スムーズな初動対応が行えるよう、対応マニュアルを作成し、対策本部の設置や住民への広報、県と連携したまん延防止措置の実施等、具体的な対応手順を整えています。家畜伝染病には予防として、必要に応じてワクチン接種への補助もしています。

脱臭装置付き縦型密閉堆肥装置

若者・移住定住者支援についてと除雪事業者確保について

根津年夫 議員

質問 **若者(新卒者)への支援策について伺う❶若者の就職を支援する取組み❷雇用する企業側を支援する取組み**

答弁 ①奨学金の返済支援、大学生のインターンシップの経費を助成していますが、今年度で新規受付を一旦終了しますが、国県の進行中の議論を注視し、より就職につながりやすい制度拡充を考えています。②技術継承のための雇用に対し人件費を一部助成する、ひとづくり支援事業、ポータルサイト利用料や合同就職説明会出展料を一部助成する若者求人情報発信支援事業を行っています。業界団体と十日町地域雇用協議会を構成し、就職ガイダンス、職場見学バスツアー等を開催しています。

質問 **移住定住者への支援について伺う❶移住定住者を支援する取組み❷若い世代の生活を支援する取組み**

答弁 ①夫婦で転入する若い世帯に対し最大200万円を助成しています。今年度からひとり親世帯を対象に加えました。また、空き家バンク事業や地域おこし協力隊については住居改修、資格取得補助、退任後の起業支援を、農業では青年就農準備金、看護師、理学療法士等の確保を目的とした就学支援貸与事業、看護職員就業支度金支給支援事業等により若者の移住、定住にもつながっています。②若者世代の単身者は非常に多く、財源や定住確認、プライバシー保護の観点から非常に難しく、現在のところ支援対象に加えることは考えていません。

質問 **除雪事業者の確保について伺う❶除雪体制の現状❷除雪事業者の確保**

答弁 ①平均的な新雪除雪経費の70%相当額を各業者に前払いし、小雪等で基本料に満たなくても精算しない当市独自の除雪基本料前払い制度で除雪体制の維持、継続に取り組んでいます。②オペレーターの確保は、ご提案のあった担い手の育成等、他市の状況も勉強しながら検討したいと思います。

道路確保に活躍するロータリー除雪車

森林整備の必要性と木育推進
大雪による学校休校について

大嶋由紀子 議員

質問 森林保全と整備の必要性について、市民の意識が高まっています。子育て環境の充実が、移住・定住の理由の上位となっております。環境づくり条例の中にあります「自然環境の保全」に、木育を取り入れてはどうでしょうか?木育推進についてのお考えは。

答弁 松之山自治振興会では、松之山美人林の間伐材を加工した木製おもちゃを松之山地域に生まれてくる新生児にプレゼントする取り組みを行っており、ぜひ継続していただきたいと思っています。また、市では産業フェスタのイベントや当間高原リゾートが主催する森フェスなどでも取り組まれています。特に産業フェスタでの妻有住まいを作る会の木のおもちゃ広場やかんなくずプール、木工体験教室が大盛況で大変好評を得ています。子供から大人も含めた木材や木製品との触れ合いを通じて木材への親しみや木の文化への理解を深めて、木材のよさや利用の意義を知ってもらう木育活動を暮らしの中に取り入れていくことは、非常に意義深く価値あることと感じています。

質問 大雪による急な休校は、共働きの現代、働く親にとっては職場の理解を得づらい面もあります。他市の例ですが、親の送迎を条件に一部開放など柔軟な対応が可能ではないでしょうか。

答弁 ご家庭によっては、保護者が出勤した後の子どもの面倒を見る大人が見つからず苦慮される場合もあると思われます。しかし、大雪で児童生徒の登下校時の安全が確保できないときには、やむを得ず臨時休業にせざるを得ない状況になることはご理解いただきたいと思います。また、災害や感染症、事件、事故等によっても休業などをしなければならないこともあります。小学校入学前に行われる一日入学などの折に、臨時休業の時に、それぞれのご家庭でどういう対応をとるかを考えておいていただきたいと、保護者に知らせるよう各学校に指導してまいります。

松之山「美人林」の
環境整備から生まれた
間伐材で作った
木製玩具

医療・介護は最重要課題
診療報酬・介護報酬の引き上げを

安保寿隆 議員

質問 基幹病院、十日町病院の現状と医師確保の見通しはどうか。

答弁 基幹病院の計画では328床でしたが現在の稼働病床数は308床です。計画に達していない主な要因は、若手職員の比率が高く、産休、育休による欠員が想定より多かったとのことです。10月現在の医師数は80人です。医師確保に向け、県と連携し新大各医局との関係を深めるとともに、人材確保コンサルタント会社の活用等を拡大しているとのことです。十日町病院の病床数は275床、11月現在の常勤医師数は25人です。医師確保については、関係の皆様からご尽力いただいていますし、市でも病院と連携し医師確保支援に取り組む所存です。

質問 介護保険第7期計画の概要は。

答弁 介護予防・重度化防止等の取組内容と目標を記載すること、2割負担者のうち所得の高い層の負担割合を3割にすること等が新たに反映されます。

質問 特養ホームの待機者は約5千2百人となっているが空きベッドが27床ある。介護士不足が原因ではないか。

答弁 施設から介護人材不足と聞いています。人材の少ないところで対応しきれない部分がベッドの空きにつながる一因だと思っています。

質問 政府の「働き方改革実行計画」では「介護人材を確保するために、2017年度予算において、月額平均一万円相当の処遇改善を行う。これにより、自公政権のもと、合計で月4万7千円の改善が実現する。」となっている。本当か、状況把握はしているか。

答弁 国の介護職員の処遇改善加算に関し、最高で3万7千円の加算がすでに行われており、これを土台に、さらに働き方改革の考え方を上積みして合計4万7千円にするということかと思います。市内15の事業者が処遇改善の取組みをしているとのことです。

●市内の特養ホームの現状

施設名	定員	入所者数	待機者数	介護職員数	
				正規職員	非正規職員
広域型特養ホーム	557	533	3,624	191	68
地域密着型特養ホーム	116	113	1,555	45	19
合計	673	646	5,179	236	87

※待機者数は各施設への重複申込者を含む。

安保寿隆議員作成

当市のひきこもりの現状把握と高齢化への対応について

高橋俊一 議員

質問 **平成26年に実施されたひきこもり実態把握調査の概要と、その後のひきこもり、不登校支援の進展や状況は。**

答弁 市全域で１４４人のひきこもり、ひきこもりと思われる人がいることが明らかとなりました。直接本人への調査ではなく把握しきれないことは承知していますが、民生委員の調査自体は十分意義があったと考えます。今年度、学校訪問を開始し、主に中学校で不登校を出さない学校体制について指導を繰り返し行っています。ひきこもり対策では、福祉課と情報共有を検討したいと考えています。支援団体との関係を大事にし、学校教育課、教育センターとしてできる取組みを進めます。

質問 **不登校生徒に対し、その後の進学等を経て、ひきこもりへと向かう可能性を認識しているか。**

答弁 過去に不登校であったケースが比較的多く義務教育終了後、何も支援が得られないことがないよう、情報を一元化し、関係機関が連携して個々に応じた支援を継続的に行える体制の構築を検討したいと考えています。

質問 **不登校やさまざまな理由から、一部の人がひきこもってしまうことに対し、福祉課はどのように対処、対応してきたか。また、確実に高齢化するひきこもりにどのように対応するか。**

答弁 今年度から生活困窮者自立支援の中でワンステップ相談といたしまして、ひきこもりがちで働くことに不安のある方などの相談を実施しています。来年度、複合的な施設を法人で準備しているところで、ひきこもりの方などの就労訓練事業を計画していただいています。高齢の方、擁護者への対応を関係機関と連携しながら対応していますが、状況が悪化する手前の段階で連携した対応ができるよう実施したいと思います。地域包括ケアも高齢者だけでなく全世代に広げる取組みを検討する中で、総合的な窓口などについても検討していきたいと考えています。

精神障がい者が関わる
ピアサポーター養成講座

看護専門学校のこれからと、大地の芸術祭と学校教育について

小林弘樹 議員

質問 **看護専門学校の❶関係者との協議状況、建設スケジュールは。❷学生確保の見通しは。❸ここで学び、ここで働きたいと思える環境整備の考えは。**

答弁 ①施設の基本設計は、ようやく協議が終了する見込みです。今後の実施設計についても、これまでと同様、関係機関の協力を得ながら議論を重ね、施設の機能性を高めたいと考えます。

②公立の利点として、学費を抑え専門教育を受ける環境が生活圏域に整うこと、当圏域内の看護系学校への進学状況を踏まえると、定員確保は可能と考えます。県と連携し確保策に取り組みます。③現実に地域社会で活躍する先輩の姿が最も心に響くのではと考えています。キャリア教育の一環として、現場で活躍する人の生の声を発信し、地域の安全・安心な暮らしを守るためには、どのような人材が求められているかを関係機関と連携し、高校生や中学生に向け、発信したいと考えています。

質問 **❶大地の芸術祭を学校教育に生かす考えはあるか。❷学校教育に生かすとしたら、どのような効果を期待するか。❸その効果を得るためには、どんな取り組みが望まれるのか。**

答弁 ①学校が大地の芸術祭と接点を持つことで、地域社会とのつながりが生まれ、社会に開かれた教育課程の推進につながります。子ども達にとって学びの場を広げ、深める貴重なチャンスへつながります。芸術祭を学校教育に取り入れることは、とても価値があると考えます。②大きく３つ述べると、地域への愛着や誇りを高める、コミュニケーション能力を高める、ボランティア参加によって育まれる自己有用感の向上です。③学校と芸術祭をつなぐ仕組みを作り、参加を促すため、コーディネーターを配置し、その役割は、学校と芸術祭がうまくつながるよう調整を図ることにあります。今後も各校に積極的な情報提供と呼びかけを行います。

レアンドロ・エルリッヒ作品イメージ

上越魚沼地域振興快速道路 一日も早い事業化について

宮沢 幸子 議員

質問 **国土交通省が整備を進めている八箇峠道路が一部開通となりました。次に続く十日町道路を促進させるための取り組みを伺います。❶アクセス道となる高山水沢線の進捗状況❷十日町インター周辺予定地の農業に与える影響と導入する機能と施設について❸具体的な基本計画の策定について**

答弁 ①昨年度、起点の国道253号側から高山城之古線までの測量を、今年度は川治川に架設する橋梁の詳細設計と地質調査、起点側の交差点や道路の詳細設計を行いました。来年度以降も継続的に事業を進める考えですが、道路延長も長く、多くの方に負担をかけることになるので、地域の皆さまと相談しながら進めたいと考えています。②用地確保により周辺地農業に影響を及ぼすことが想定されることから、道路整備と合わせてほ場整備事業を行うことが適切と考えています。農地の利用集積による生産性の向上、老朽化した導水路等の施設更新が図られ、地域農業が活性化することも期待されます。今後、基本計画の策定で、導入する機能は、より有効的で実現性の高い機能を検討しなければと考えています。一方で、商業施設等が乱立する懸念もあり、基本計画を策定するうえで法的な規制や誘導手法を用い、自然や景観、営農環境へ配慮したいと考えています。また、アクセスを活かした物流機能等、既存の工業団地等を活用した機能連携を見据えて、周辺土地利用は、有効的かつ必要最小限にするべきと考えています。③ルート帯の決定後に測量や調査が行なわれて、道路法線が決定すると思われます。土地利用の基本計画は地形図に具体的な計画を落とし込む作業ですので、市としては道路法線の検討状況の進捗に併せ、基本計画の策定に着手したいと考えています。

長年の夢がかなった八箇峠道路の開通

人口減少対策について

富井 高志 議員

質問 **人口減少の現状と課題は**

答弁 27年に策定した人口ビジョンの将来人口の推計では、策定当時5万5、643人から、以降年間370人の自然減を見込んでいます。人口減少対策として、移住、定住促進策を実施するとともに、雇用対策、就農支援、高等教育機関の設置等を行うなどの転出抑制に取組み、37年に5万人を維持することを目標に掲げています。

質問 **単身者の若者への定住促進助成が必要と考えるが、どう考えるか**

答弁 今回、定住促進助成事業には、ひとり親世帯だけを加えました。単身者の転入者は年間200名を超えると思われ、その方々が転勤なのか定住されるのか見極めが難しく、プライバシーの問題から調査に限りがあります。また、現在おられる方への変更もあり、どこに線引きをするのかや財源の問題もあり、単身者を助成対象に加えることは現在考えておりません。

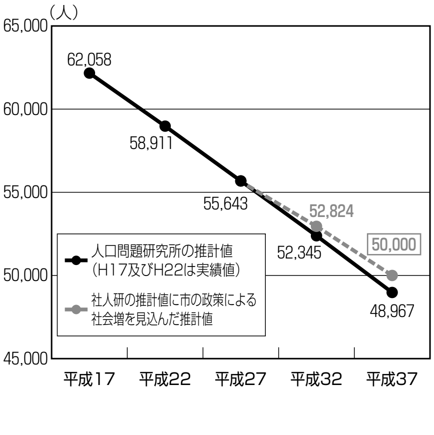
質問 **地元就職促進のために保護者向け企業説明会を開催してはどうか**

答弁 やはり親御さんの意向は非常に働くだろうなと思っています。今年から始めたキャリア教育を、来年は高校生にも広げようと思っていますが、その中で親御さんをどう巻き込んでいけるか、どういったことができるか、関係する商工会議所や学校教育課とこれから協議したいと思っています。

質問 **移住定住施策のプロモーションの充実を**

答弁 必要な情報をまとめたガイドブックの作成に入っているところです。今年度も新たな制度を加えたり創設していますので、それも含めて刷新を図る検討に入っています。何とか年内には発行したいと思っています。ネーミングも非常に重要な要素で、他自治体を参考に検討を進めています。移住、定住の情報が多くある中で、当市も負けずに、そういう情報に埋もれないよう頑張っていきたいと思っています。

●十日町市の人口推移



起業家支援、移住・交流推進支援の拡大を求む

小野嶋哲雄 議員

質問 **当市最大の政治課題である高齢化・人口減少による地域経済の縮小の打開策として有効である総務省のクラウドファンディング型ふるさと納税制度への取組みと制度の拡充内容を伺います。起業・創業者の最大の課題は資金の調達ですが、国が特別交付税措置を約束することによる市の支援策の拡充は。また、移住・交流推進の裾野の拡大、納税者との継続的なつながりも対象事業となるが、市の制度を活かしたさらなる支援の拡大策は。**

答弁 総務省が示した今回の制度は、納税者と継続的なつながりを持つことを目的としており、ふるさと納税の使い道を事前に示して寄附を募ることで、寄附文化の醸成を図り、さらなる制度の推進を図ることが重要と考えます。また、総務省は、ふるさと納税を活用した起業支援や移住・定住推進施策に取り組む自治体に、特別交付税措置等で支援するとしています。これまで市が行ってきた起業支援や移住・定住への取組みの後押しとして、大いに歓迎しており、導入に向けて準備を進めています。起業家支援では、公募した起業プランに対し、ふるさと納税で寄附金を募り、初期投資に係る資金調達を応援します。市町村が上乗せして補助金を交付する場合は、国から特別交付税による措置が行われます。移住交流促進では、市や地域が行う空き家、古民家活用による移住者向け住宅等の整備、新規の就業者、就農者のための環境整備などを対象としており、地方への人口流入を目指します。ふるさと納税をきっかけとして、継続的なつながりを持つことが重要と考え、市では制度の構築、寄附者と地域の関係づくりの基礎を整えたいと思います。これらにいち早く取り組むことで、市が重要課題として推進する人口減少対策の一助にしたいと考えています。

●ふるさと納税活用 起業・創業事業費
（例：1,000万円）

【従来の資金計画例】

自己・借入資金（例:700万円）	補助金（例:300万円）

【新制度活用資金計画例】

自己・借入資金（例:400万円）	補助金（例:300万円）	補助金（例:300万円）

ふるさと納税の活用（例300万円）
（使途を明確したクラウドファンディング型）

小野嶋哲雄議員 作成

農業応援対策

滝沢 繁 議員

質問 **❶農業という産業をどのようにとらえるか市長の考えを伺います。❷今年度の稲作について、一等米比率の低下や刈り取り不能田があることを災害と認定し何らかの対策を講じることは出来ないか市長の考えを伺います。❸鳥インフルエンザ防除と対策支援❹今日の農業情勢（農協改革、収入保険、種子法廃止）など、考えを伺います。**

答弁 ①当市にとって農業は基幹産業です。トップブランド米の産地であり、畜産、園芸等も含め、日本一の農業産地として発展を続けなくてはなりません。また、国土保全、水源かん養などの多面的機能を有し、近年では観光資源としても注目されています。一方、農村の高齢化、人口減少等で地域の共同活動等により支えられている多面的機能に支障が生じています。市では、国県と共に地域活動への支援を行い、多面的機能が適切に発揮されるよう努めています。②収量減少や品質低下は水稲共済など、保険制度で対応すべきもので、刈取りを諦めたことを行政が災害とみなし対応することはできません。市は引き続き、気象変動に強い米作り、倒伏させない管理の徹底、適正な作期分散への取組みを進めます。③家畜の防疫は、各経営者の責任で行うことが基本ですが、市では畜産支援の一環として防鳥網等の購入補助制度を設けています。④農協法改正を含む制度の見直しにより、さらに農業者にメリットのある運営が行われるよう、今後の自己改革を期待しています。収入保険制度は31年度から生産者の収入を支える制度として開始されます。制度を知ってもらい、多くの方から加入を検討いただきたいと思います。30年度以降も県が責任を持って、優良種子を供給するための予算と人員を確保するよう、既に要望しています。市では国の制度改革を的確に捉え、市内生産者の所得向上と産地の発展に努めます。

苦労した秋の稲刈

来年度からの笹山遺跡と大地の芸術祭の事業展開策を提案

樋口利明 議員

質問 **笹山遺跡に衣食住遊の体験観光交流拠点をつくるべく専任の人物を配し基本施設設備を設けてほしい。**

答弁 新博物館の開館にあわせて、縄文文化を体験、体感する施設の整備と機会の提供にも取り組んでいきたいと考えています。その中で人的支援についても検討を進めていきます。

質問 **大地の芸術祭は、いままでの経緯と実績及び将来への継続性をかんがみ、事業の展開策を変更すべく広く市民に問うべきだ。**

答弁 第1回展から3回展までは、市町村の負担金と県の補助金を主な財源として実施してきました。近年では国からの補助、パスポートの売り上げ、寄附協賛金を大きな財源として実施しています。6回展の決算で当市と津南町の負担金の占める割合はおよそ16%となっています。しかし、国の補助金がずっと続くかどうか不明確ですし、寄附協賛金も時代の趨勢によって変動しがちな面があります。今後も行政だけでなく、民間の力を活用しながら、安定した事業運営ができるように知恵を絞っていきたいと思います。

質問 **今後の市の仕事と財政負担を考えるとき、この二大事業の財団化を提案する。全世界的テーマを世界に発信して、内外の英知と人材、そして資金を集めていくべきだ。**

答弁 笹山遺跡には、すでに組織があり、地域と一緒に活動するつもりですので組織化は考えていません。芸術祭ではNPO法人が設立されており、さまざまな面で活躍いただいています。また、首都圏の若手経営者を中心にオフィシャルサポーターが結成され、各人の得意分野を中心に多大なサポートをいただいています。継続展開に向けて徐々に体制が整ってきていますので、当面は現状のまま実施し、情勢に合わせた仕組みづくりを検討します。

冬の笹山遺跡

国保は都道府県化後も、市民の医療保障充実のカギ

鈴木和雄 議員

質問 **❶仮算定結果で市町村ごとに差異がある要因は。本算定後徴収はいつからか。❷統一保険料への道は、多くの課題を抱えている上、保険料の値上げに繋がりかねない。どう考えるか。❸都道府県化するからと言って公的責任を自己責任や助け合いに矮小化できない。国保運営は市民の医療保障充実の鍵を握っている。どう考えるか。**

答弁 ①標準保険料額にばらつきがあるのは、それぞれの市町村の所得水準や医療費水準、前年度の交付金の精算によるものです。また、30年度と28年度の伸び率の増減が大きいのは、今まで市町村に入っていた前期交付金が今度県に入るようになったこと、医療水準や所得水準が大きく変わったことなどが影響しているというのが県の分析です。県の国保運営方針では暫定賦課は廃止の方向で示されています。市では、これまで4月と7月の2回に分けて賦課を行っていましたが、都道府県化により、4~6月までの暫定期間を廃止し、7月に賦課を1回行い、納付月を7月から翌年3月までの9か月間とすることを検討しています。②県では医療費格差が縮まなければ統一は行わないとしています。保険料の統一化について、それぞれの市町村で医療費格差や保険料の収納率格差があり、慎重に検討しなければと考えています。負担が大きくならないような独自減免については、本算定後、保険税を特定健診等の独自事業に充てるのか、多子世帯や低所得者の基本となる金額を低くするために充てるのか、運営協議会に諮りながら検討していきます。③国民皆保険をしっかり堅持するという観点から、このすばらしい制度が壊れないように守る責務があると思っています。当市は、ほかの自治体より収納率が高く、そうしたことも踏まえながら本算定では適切な保険料の策定をしていきたいと思います。

●国保仮算定結果（魚沼医療圏のみ抜粋）

単位：円・％

市町村名	一人当たり標準保険料額		
	H30年度一人当たり保険料額	H28年度一人当たり保険料額	保険料額平均伸び率H30/H28比
県平均	89,311	100,594	−5.77
十日町市	89,752	96,515	−3.57
魚沼市	80,469	103,036	−11.63
南魚沼市	85,552	105,588	−9.99
津南町	107,241	116,139	−3.91
湯沢町	86,019	101,471	−7.93

（鈴木和雄議員作成）

大地の芸術祭・公民館、社会教育の在り方を問う

藤巻 誠 議員

質問 今般の衆院選挙を受けた市長の政治姿勢は。

答弁 今まで以上に民意に耳を澄ませ、市民の声なき声を市政に反映したいと考えています。

質問 大地の芸術祭の今後の在り方について❶東京オリ・パラと関連付けた第8回展の開催年は。❷20年以上経過した運営体制の今後の在り方は。

答弁 ①3年に1度ですので開催は2021年が基本です。7回展から2020年の東京オリ・パラ、そして8回展へと怒涛の人の流れを生み出す効果的な方法を時期も含めて検討します。国を挙げての一大イベントですので芸術祭も四季の取組み等と連動して一緒に盛り上げたいと考えています。②芸術祭がここまで発展してきたのは、北川総合ディレクターよるところが大きく、高く評価しています。これまでの歴史と経験、理念を次の世代へスムーズに世代交代できるよう地域と一緒に取組み、発展させたいと考えています。

質問 社会教育・公民館活動の在り方について❶中山龍次元町長の公民館設立の理念と今後のまちづくりについて❷「翔炎」の移転保存❸市展等新公民館・文化ホールの使い勝手は。

答弁 ①公民館活動をとおして、地域を担う教養ある人づくりに尽力された中山龍次元町長の理念は、現在の社会教育につながるものと認識しています。引き続き今の時代に応じた公民館活動を展開し、社会教育団体や市民に寄り添いながら、地域づくりの主役となる人材育成を進めてまいりたいと考えています。

②現在進めている児童遊園施設の屋外広場の具体的な計画段階で、移設場所の検討に入りたいと考えています。③来場者からはおおむね好評でしたが、作品の展示方法や照明など、いくつかの課題もあり、今後、関係者と改善策を検討したいと考えています。

旧中央公民館前の「翔炎」

祝い唄天神ばやしの条例制定、笹山遺跡での火焔の都整備事業の早急な実施

吉村 重敏 議員

質問 市内の宴席の祝い唄天神ばやしを伝統文化継承と十日町地域の魅力発信のために条例制定してはどうか。

答弁 今も盛んに歌われており、地域の大切な伝統文化だと考えています。条例制定の趣旨として、伝統文化の継承、また、天神ばやしが歌われる前は席を立たないという風習から、30・10運動などの食品ロスを減らす取組みや、地酒や地元食材の消費拡大など、様々な可能性があるのではと考えています。条例制定にあたっては、市内においても天神ばやしを歌う風習のない地域があることや、ほかにも継承すべき伝統文化があること、飲酒できない方や健康への配慮もしながら、市の魅力発信や地域活性化につながるような内容にしたいと考えています。まずは、他市の事例等も参考にしながら、条例制定に向けた調査・研究を、議員の皆様と一緒に進めたいと考えています。

質問 笹山遺跡周辺の火焔の都整備事業がなかなか前進しない。東京五輪前に完成の新博物館だけでは縄文見学者の満足が心配だ。笹山遺跡のインバウンド対応施設整備要望書も出ている。火焔の都と呼ぶにふさわしい縄文公園を早急に整備しないか。国宝展示施設を造るか。

答弁 新博物館建設と合わせ、縄文文化を体験する場も必要と考えています。要望書を受け、現在できるところから計画を始め、30年度から5年をかけて発掘調査したいと考えています。この調査を機に笹山で縄文体験ができるような様々なイベントを検討していきます。まずは地元やボランティアグループと相談しながら進めたいと考えています。文化庁や市民の皆様から協力をいただき、中心市街地に国宝も展示できるスペースができました。笹山での国宝展示も当然考えなければと思いますし、監督官庁の指導の中で、どういうものがあれば国宝が展示できるのかも含め、検討しなければと思います。

じょうもん市2014　夜祭り聖火台

市内の交通弱者、障がいを持つ方や家族の交通確保対策は

水落静子 議員

質問 **人工透析を受けている方、重度障がい者の方々のご家族の高齢化で送迎等への不安の声が聞かれる。❶障がいのある方や付き添いのご家族の通院や買い物の交通対策はどうなっているか。❷どのくらいの割合で利用しているか。❸今後の交通確保対策は。**

答弁 ①交通確保対策として、高齢者外出支援事業を利用している方を除き、タクシー利用料金または通院、通所交通費の一部助成をしています。タクシー利用券の助成は500円の券を20枚、人工透析者には40枚交付しています。タクシー利用料金助成では、申請書を年12枚、人工透析者には24枚交付し、領収書を添付して申請していただきます。助成額は料金の½、上限は1枚につき2千円です。通院、通所交通費の助成は実測で、自宅から5km以上、年4回以上の通院で医療機関発行の領収書を添付、施設への月15日以上かつ半年以上の通所で、施設発行の証明書を添付して申請していただき、助成額は年1万円です。人工透析者へは、自宅から医療機関までの距離に応じて助成を行っています。これらの助成は重複して利用することはできませんので、各自の利用形態によって選んでいただく形になります。また、心身障がい者へは、通所に伴う公共交通機関利用料金の⅓を助成しています。②助成要件対象者1、628人のうち、助成者数は925人で、率にして56・8%です。③やり方はいろいろあるかと思いますが、他市の例もありますので、福祉有償運送に取り組めるよう、運営協議会設置の準備を進めています。設置された場合は、取組みに参加する事業者が出るよう、NPO等に呼びかけていきたいと思っています。透析者への交通費助成については、医療機関との距離が離れるほど交通費に対する助成割合が低くなることから、より合理的な助成方法がないか研究したいと思っています。

14人乗りバス

議会用語解説

一般質問

◆本会議で議員が市長に対して行う市政全般に関する質問です。十日町市の事務の執行状況や市政の方針等について質問し、報告または説明を求めることをいい、定例会に限って許されます。一般質問は「通告制」になっており、質問者は、定例会開会日の10日前の正午までに通告書を提出することが必要となっています。十日町市の議員一人当たりの質問時間は、再質問と答弁を含めて50分としています。

質疑

◆本会議で議題となっている議案等に関して、賛否等の態度決定が可能となるよう、不明確な点について提出者の説明や意見を求めるものです。質疑は、議題となったときにのみ可能です。質疑の回数は、会議規則により、連続して1人3回以内に制限されており、また、質疑の時には自己の意見を述べることはできません。

皆さんも議会を傍聴してみませんか

次の3月定例会は、3月1日(木)からです。詳しい日程は、2月下旬の議会運営委員会で決まります。決まり次第に市のホームページでお知らせします。

当日は、住所・氏名を傍聴席入口の受付簿に記入し、入場してください。学校など団体で傍聴する場合は、事前に連絡ください。

■**議会事務局** ☎757－3119

市役所3階
この看板が目印

傍聴席入口です（自動ドア）

議会傍聴

12月1日、西小学校6年生37名が議会傍聴に来られました。
1日の議会傍聴後に、全員から寄せられた感想の一部をご紹介します。

市議会議員の皆さん、議会を傍聴させていただきありがとうございました。政治活動はよく分かりませんが、大変という事は伝わってきました。

議会では、いろいろな議題について話していて、すべて市のために話し合ってくれていてうれしかったです。

議会は、小学校の代表委員会に似ていて、議長が話していることなどが、参考になりました。

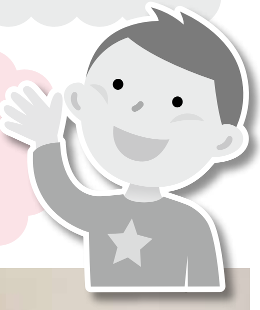
議会は、議員が部長、課長に質問や意見を言っていて、本当の会議をしているということが伝わってきました。

議会にいる皆さんは、十日町をよくするためにがんばっていることが分かりました。学校のことや十日町のことを考えてくれていると思いました。30分間見ている間、とても関心をもつ、すばらしい議会でした。私も議会にいる皆さんのように、基本的なことができる私になりたいです。傍聴させていただきありがとうございました。

議会を傍聴させてもらって、いい経験になりました。みなさんの様子をこれから参考にして、がんばっていきたいです。もっともっと、いろんな事にくわしくなって、将来はみなさんみたいな仕事をして、十日町をもっとよくしたいと思いました。

議員さんや、市長さんを生で見ることができました。NHKなどで国会中継を目にすることがありましたが、十日町市の議会は初めて見ることができました。各課の部長さんや議員さんの言葉は分からないことだらけでしたが、ゆっくり、聞きやすく話していたので、真似したいと思います。緊迫感が傍聴していたぼくたちにも伝わってきました。3、6、9、12月年4回も市民の幸せを考え議会を開き、すごいと思いました。

議会中はとても緊張した雰囲気で、聞いていたぼくも緊張しました。



12月定例会議決結果

議案番号等		件　　　　　　　名	付託委員会審査結果	採決状況	議決結果
市長提出議案	149	専決処分の承認（平成29年度十日町市一般会計補正予算〔第４号〕）	―	全員賛成	原案可決
	150	専決処分の承認（平成29年度十日町市一般会計補正予算〔第５号〕）			
	151	十日町市コミュニティセンター条例の一部を改正する条例制定	総務文教 可　決	全員賛成	原案可決
	152	十日町市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例制定			
	153	十日町市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例制定			
	154	十日町市犯罪のない安全・安心なまちづくり条例の一部を改正する条例制定			
	155	十日町市奨学金等貸与条例の一部を改正する条例制定			
	156	字の変更（県営中山間地域総合整備事業 六箇地区 田麦（小豆中子）換地区）	産業建設 可　決	全員賛成	原案可決
	157	字の変更（県営農地環境整備事業 当間地区 下村換地区）			
	158	字の変更（県営中山間地域総合整備事業 清津里山地区 七川換地区）			
	159	十日町市当間体験交流施設条例を廃止する条例制定			
	160	指定管理者の指定（十日町市職業訓練施設）			
	161	指定管理者の指定（仙田体験交流館）			
	162	指定管理者の指定（十日町市大厳寺牧場及び十日町市大厳寺畜舎）			
	163	指定管理者の指定（十日町市農産物加工直食施設）			
	164	指定管理者の指定（十日町市大厳寺高原森林総合利用施設、十日町市農林産物直売所及び十日町市大厳寺高原森林総合利用休養休憩施設）			
	165	指定管理者の指定（越後妻有交流館キナーレ）			
	166	指定管理者の指定（珠川ネイチャーカレッジ）			
	167	指定管理者の指定（松之山温泉スキー場）			
	168	指定管理者の指定（鷹の湯）			
	169	市道の廃止（山野田原栄町線ほか47路線）			
	170	市道の認定（田麦広域農道線ほか106路線）			
	171	地籍調査事業による住所表示の変更に伴う関係条例の整理に関する条例制定			
	172	十日町市上水道給水条例の一部を改正する条例制定			
	173	十日町市手数料条例の一部を改正する条例制定	厚　生 可　決	全員賛成	原案可決
	174	十日町市立保育所条例の一部を改正する条例制定			
	175	十日町市子育て支援センター条例の一部を改正する条例制定			
	176	指定管理者の指定（松代ゆうあいセンター）			
	177	指定管理者の指定（十日町市松代デイサービスセンターほのぼの園及び十日町市松代デイサービスセンターつるかめ園）			
	178	指定管理者の指定（ゆうゆう荘）			
	179	平成29年度十日町市一般会計補正予算（第６号）	―	全員賛成	原案可決
	180	平成29年度十日町市国民健康保険特別会計補正予算（第２号）			
	181	平成29年度十日町市国民健康保険診療所特別会計補正予算（第３号）			
	182	平成29年度十日町市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）			
	183	平成29年度十日町市介護保険特別会計補正予算（第３号）			
	184	平成29年度十日町市簡易水道事業特別会計補正予算（第３号）			
	185	平成29年度十日町市下水道事業特別会計補正予算（第３号）			
	186	平成29年度十日町市水道事業会計補正予算（第３号）			
議会提出議案	22	議員派遣	―	全員賛成	原案可決

自由の風

会派自由の風は、縄文文化発信の政策を見越し、「縄文文化とは何ぞや」を考察するため、資料の膨大な三内丸山遺跡を訪ねた。また外国人急増の高野山を訪ね、インバウンド観光のきっかけと受入策を学んだ。さらに特異な「梅おにぎり条例」を制定して南高梅産業の発展と町民健康に多くの政策を展開中の和歌山県みなべ町などの視察を行った。簡易報告を以下に記します。

7月5日は青森市の国史跡の三内丸山遺跡。津軽海峡をはさむ縄文遺跡群が世界遺産を狙っている。その中心が三内丸山遺跡。石斧で削った直径1ｍの栗の木(6本で櫓組)。樹の内皮で編んだ縄文ポシェット(クルミ入り)。小石を2個を入れた子供の土器墓。石で丸く囲った長老墓。動物と魚の骨と加工品。幅8ｍの遺跡内道路跡など縄文の生活情報が膨大で縄文を知るに特別貴重な遺跡。同6日は五能線列車で世界遺産白神山地踏査へ。原生林の魅力と保護施策を体感した。翌日は能代市役所で白神山地、五能線を活かした観光振興策を尋ねた。

10月11日は和歌山県みなべ町を訪れ「南高梅」行政を尋ねた。優良品種を開発した先人を手厚く顕彰。「南高梅」は南部高校名から命名。町民の70％が梅産業に従事。梅おにぎり条例を制定、6月6日は梅おにぎりの日と定め、町民の健康増進、梅産業の維持発展を図っている。みなべ町は南魚沼市のコシヒカリと「南高梅」でおにぎりを作り、日本橋三越前で試食会。他にも梅システムで世界農業遺産認定など政策努力が多い。翌12日は「認知症で町おこし」で全国の注目の御坊市を訪れた。認知症の人を市内外から集める本人サミットなどを開催。これまでの支援する側、される側という認識を改め、認知症本人の声に耳を傾け、ともに生きる社会の実現を目指している。翌13日は真言密教の高野町で観光政策を聞いた。人口2300人、3分の1が僧侶。年間180万人の観光客、21万人が宿泊、うち7万人が欧州などの外国人。フランスのル・モンド紙の特集、熊野・高野山世界遺産、ミシュラン3つ星で激増。宿坊や精進料理、写経、朝勤行など伝統文化が魅力。外国人対策では洋式公衆トイレ、フリーＷｉ－Ｆｉ、海外向けホームページ、スマホアプリなどに努力。信仰の高野山と観光産業「高野山」の両立を課題としていた。

三内丸山遺跡にて

会派通信

だいち

私たちは、互いの思想信条を大切に、自由闊達な議論をし、認め合いながら地域を見回り、生の声を拝聴し、切実な要望をいかにスピーディに具現化し、具体的な政策へと反映させていくか!!をモットーに、現場主義を根底に会派活動を展開しています。具体的には

①地域と行政の橋渡し

松之山浦田地区の懸案となっている買い物拠点施設の維持継続について地元に出向き、住民運営組織と意見交換し、現状や問題点と対策を協議し、地元の要望が市に伝わりやすいように橋渡しをしました。

②定例議会での一般質問

より有効な政策提言とするために、個々の質問内容を開示し合い、質問テーマの決定や政策の具体化に向け相談や議論をしあい取り組んでいます。

糞尿投入水槽前で説明する
熱田洋一氏（豊橋技術科学大学准教授）

③会派視察を提案に繋げる活動

視察先などについて各自の関心事を持ち寄り協議の上決定します。秋に愛知県にある当市と同規模の豚舎を訪問しました。この施設は、臭気対策とバイオマス発電と堆肥化を一体化して取り組んでいる親豚百頭規模の豚舎です。現場にて臭気の度合いを確認しながらバイオマス発電施設を見学し、共同事業者の企業と大学の担当者や経営農家の方と質疑応答をすることが出来ました。続いて奈良と京都を訪れ、国宝のメッカにおける保護と活用について体感学習し、有意義な視察研修となりました。

メタンガス発電設備

これらを基に、当市において、畜産の発展を目指した臭気対策や日本・世界に誇れる国宝を活用した「笹山縄文の都」構想を実現へと導く手助けをしていきたいと思っております。

これからも、市民の生活と市政に係わる課題等について、誠心誠意取り組んでまいります。素朴な疑問やご質問など、気軽にご連絡、ご相談願います。

●発行／十日町市議会　●E-mail: t-gikai@city.tokamachi.lg.jp　●編集／議会だより編集委員会

議会レポート

厚生常任委員会●視察報告

今月号は、厚生常任委員会の管内視察と管外視察の活動を報告します。当委員会は福祉課、市民生活課、子育て支援課、発達支援センター、健康づくり推進課、医療介護課を所管しています。

青空ベジィにて

市民にとって最も身近な関係部署を担当している当委員会は、現場の視察により、意見や課題を把握することが重要と考えています。

■管内視察

6月28日、管内の施設を視察しました。

①民営化が予定されている松代保育園、中里なかよし保育園。修繕箇所の確認や移管先法人との意見交換を行いました。

②障がい者就労継続支援B型事業所の工房なかさと、グループホームこもれびは、NPO法人職員が地域に根差した運営に励んでいます。

③産後ケア事業に取り組むたかき医院と、病児・病後児保育を行う子育て・健康支援センターちくたくは、広域的な子育て支援を目指し頑張っています。

研さんした諸課題は担当部課長に提言し、さらなる充実を要請しました。

■管外視察

7月25日～27日、管外視察を行い、愛媛県松山市で「農福連携」に取り組む障がい者就労継続支援B型事業所「メイド・イン・青空」を視察しました。

全国的に注目されている「農業」と「福祉」の連携により耕作放棄地解消や担い手不足等に挑戦し続ける先駆的モデル事業所です。障がいのある人達が自然農法に取組み、販売ルートを開拓。収穫した米や野菜は、付加価値が高まり常に完売。平均賃金は全国平均一万4千円を大きく上回る6万円。

これらの食材を使ってランチ提供する「青空ベジィ」は大人気!!　土に触れ、植物を育て、自分の得意分野を見つけ、生きがいを持って取り組む姿に大きなヒントをもらいました。

当地域の課題解決の手法として「農福連携」という新たな取組みを推進していくことが重要であると委員一同実感しています。

自然農法の水田で説明を受ける委員

表紙写真について

今号の表紙は十日町高校写真部の作品です。

十日町高校写真部

3年生が引退し、1・2年生計14名で活動しています。今年度は、さまざまな場所へ撮影に行きました。また、十日町市のイベントのボランティアにも積極的に取り組みました。来年度の大会へ向けて、日々腕を磨いていきたいです。

【お問い合わせ】
十日町市議会事務局
〒948-8501
十日町市千歳町３丁目３番地
市役所本庁舎３階
電話 025-757-3119
FAX 025-757-5999

あとがき

いよいよ寒い季節になりました。十日町市では約半年は雪の中で暮らします。どうやったら不便なく日常が送れるか、議員一同が真剣に捉えています。また、雪があるが故に楽しめることもあります。ご意見をお聞かせください。

今回の議会は19名の議員が一般質問に立ち、この地域の課題解決にどう臨むのか真剣に質問していました。その中でも、農林業関連の質問が多く出されました。新たなTPP、二国間FTAなど、山間地を多く抱える十日町市の農林業をとりまく課題は山積しています。農林業を守らねばならないと強く感じました。

（滝沢　繁）